



生物多様性と社会的価値が高い地域での 責任ある天然ゴム生産を目指して

スマトラ島ブキ・ティガプルでの例

アディティア・バユナンダ
WWFインドネシア



インドネシアでの自然林破壊とWWF

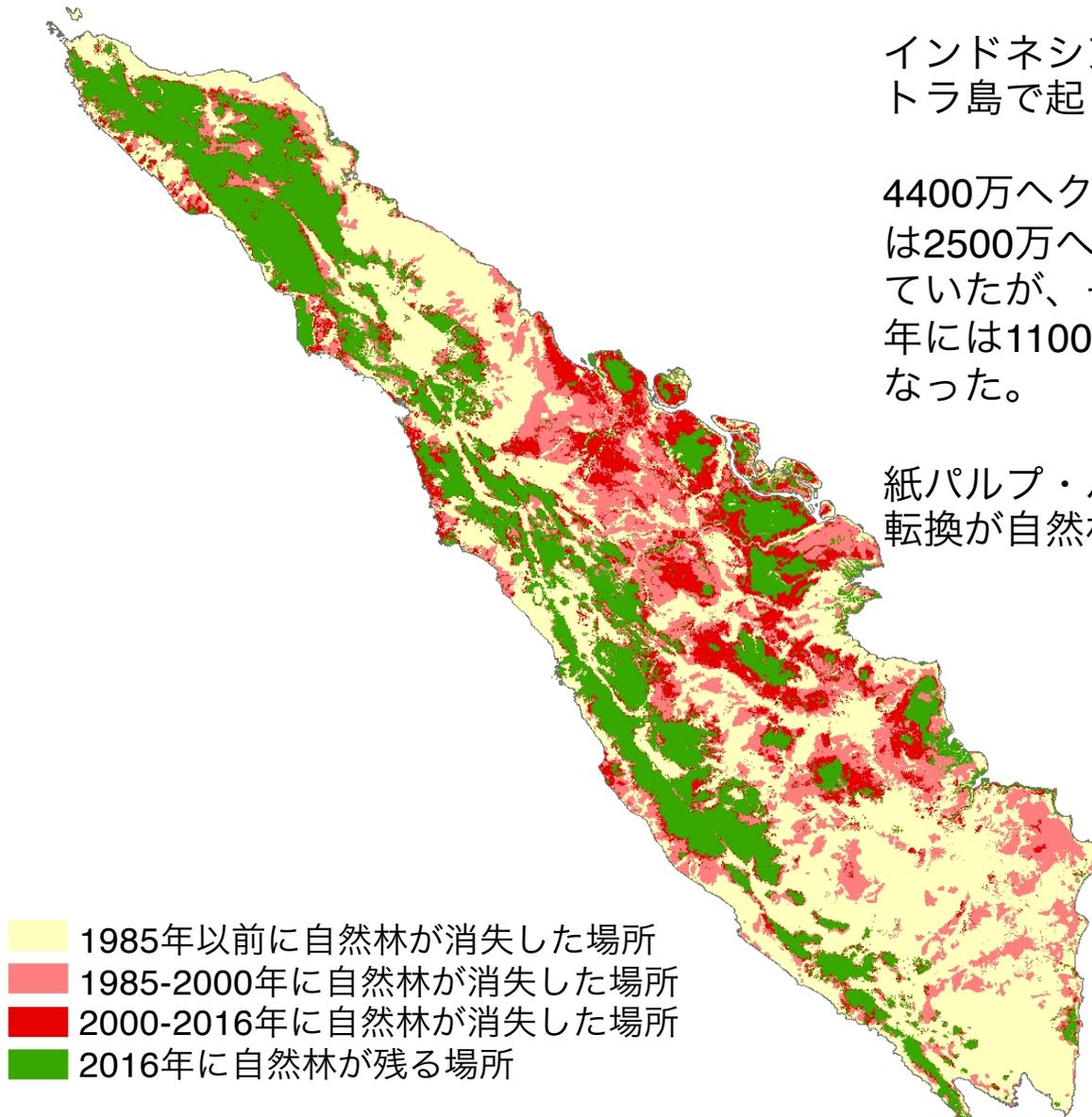


スマトラでの自然林破壊

インドネシアにおける自然林破壊の多くはスマトラ島で起こってきた。

4400万ヘクタールのスマトラ本島は、1985年には2500万ヘクタール（57%）の自然林で覆われていたが、その半分以上が31年間に消失、2016年には1100万ヘクタール(25%)を残すのみとなった。

紙パルプ・パーム油生産のための自然林伐採・転換が自然林破壊の主な原因である。





WWFによる野生動物と自然林保護活動

WWFは、インドネシアでの自然保護活動を1963年に開始。現在、17州の28カ所にオフィスを持って活動している。



野生動物の生息地の保護という目的で、自然林破壊を止め、生態系を再生させるため、以下のような活動を行っている：

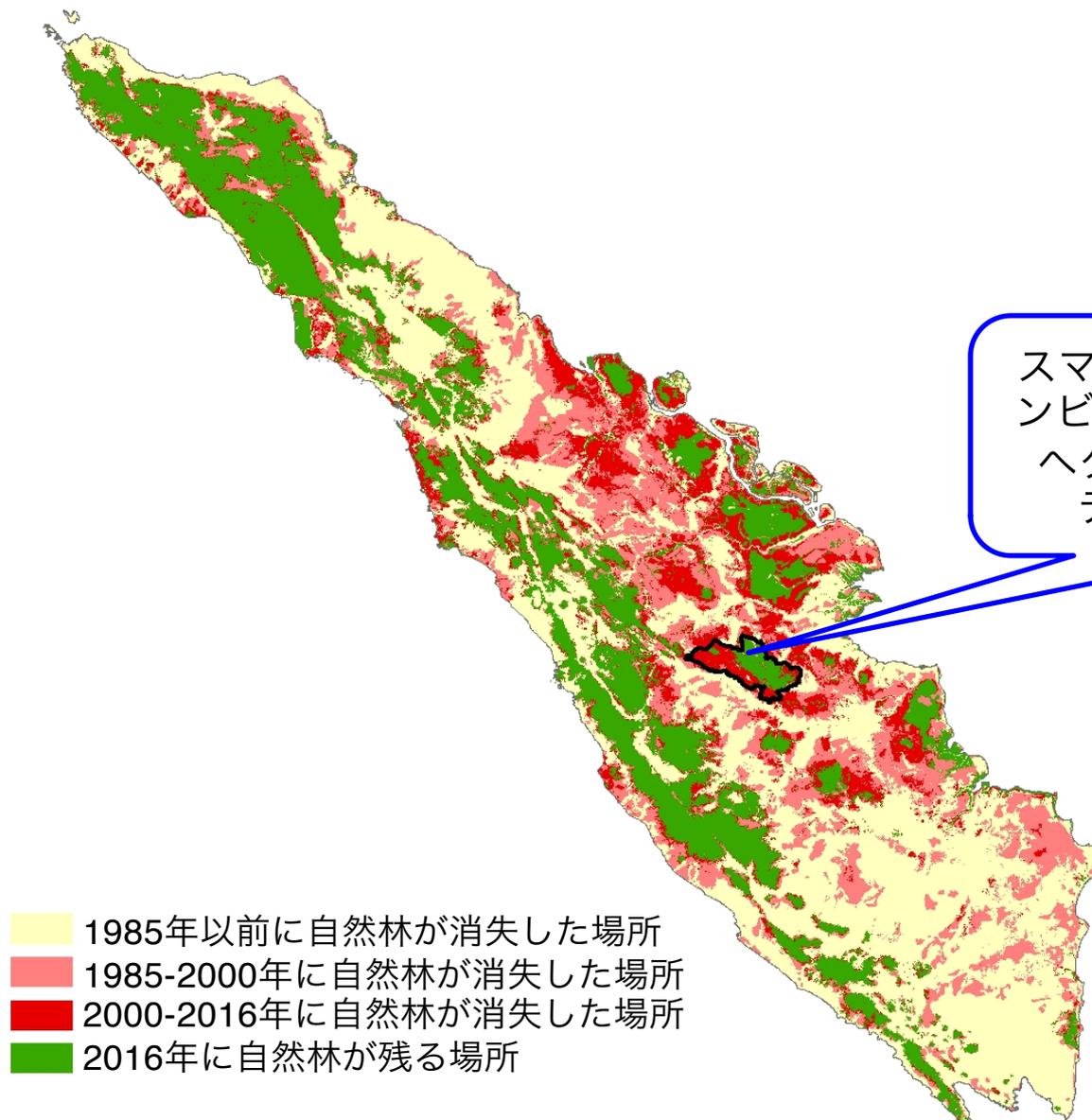
1. 自然林のモニタリングと自然林破壊の原因の究明
2. 自然林破壊を行う企業（主に紙パルプとパーム油産業）とそのステークホルダーとの対話を通して、自然林破壊の停止と森林再生を求める活動
3. 企業に対して、持続可能な農林産物の生産と調達を推進する活動
4. スマトラのブキ・ティガプル景観などの重要地域で、フィールドレベルでの実際の自然保護・再生活動



ブキ・ティガプル景観とWWF



ブキ・ティガプル景観の場所は？





ブキ・ティガプルの高い保護価値



スマトラゾウ 約150頭



スマトラトラ 約30頭



スマトラオランウータン 約180頭



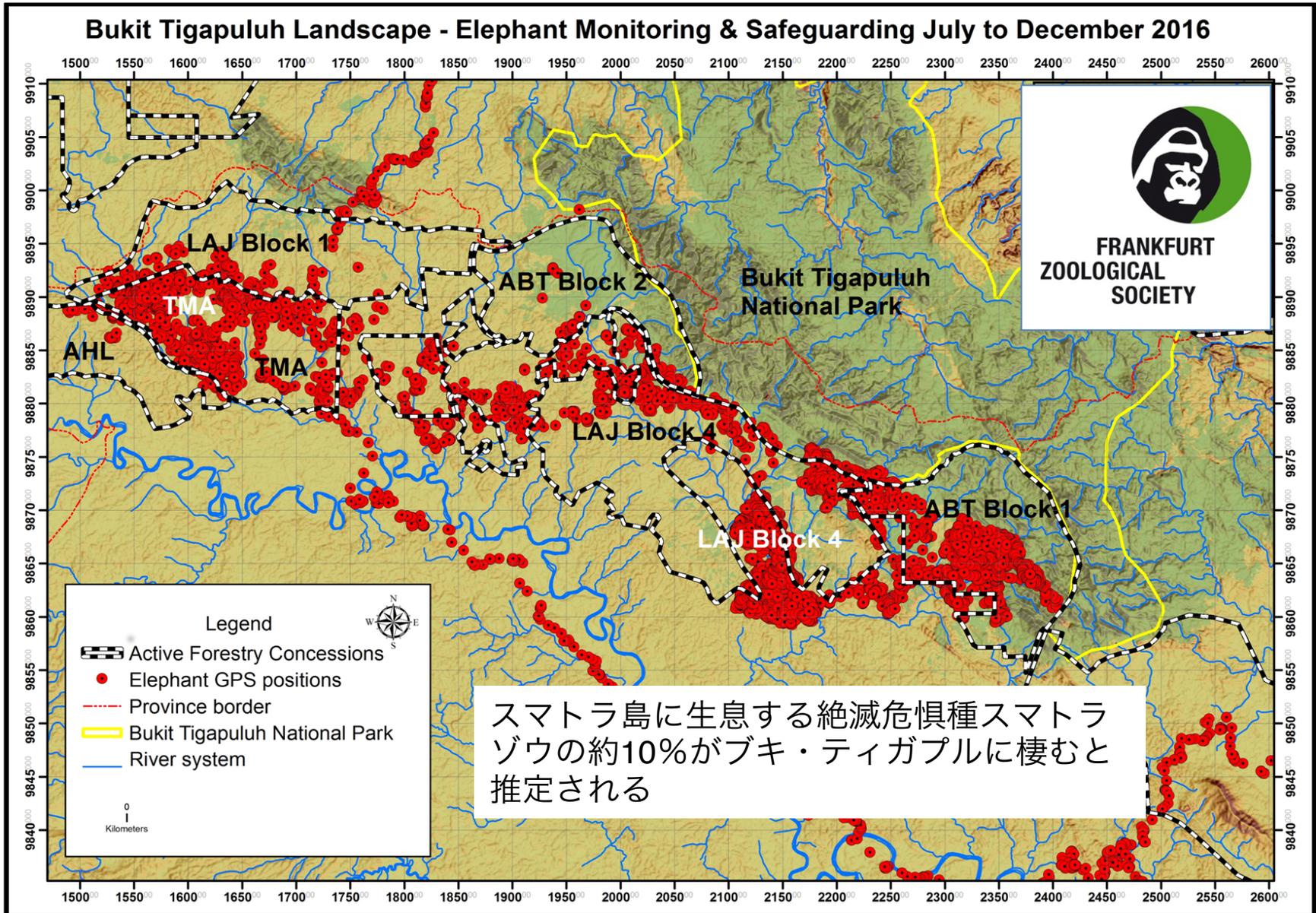
先住民オラン・リンバ
約500人



先住民タラン・ママク
約8,000人



ブキ・ティガプルはスマトラゾウの重要な生息地



An aerial photograph showing a vast, dense tropical forest covering a mountain range. The forest is a deep, rich green, and the mountains in the background are partially shrouded in mist or low clouds. The sky is filled with large, white, fluffy clouds, suggesting a bright but slightly overcast day. The overall scene conveys a sense of a vast, untouched natural environment.

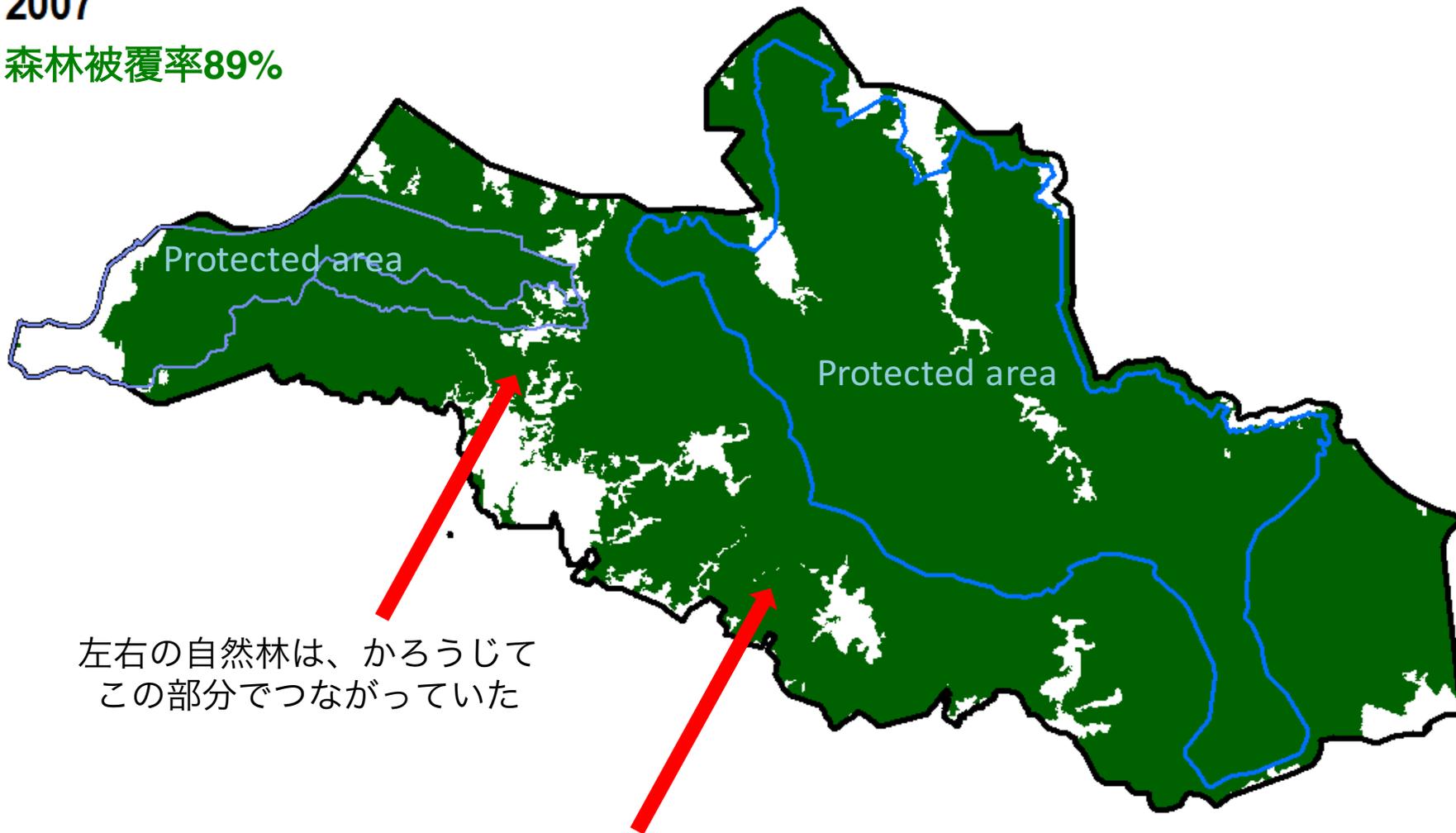
人も動物もブキ・ティガプルの自然林を必要としている



しかし、自然林破壊は加速している

2007

森林被覆率89%

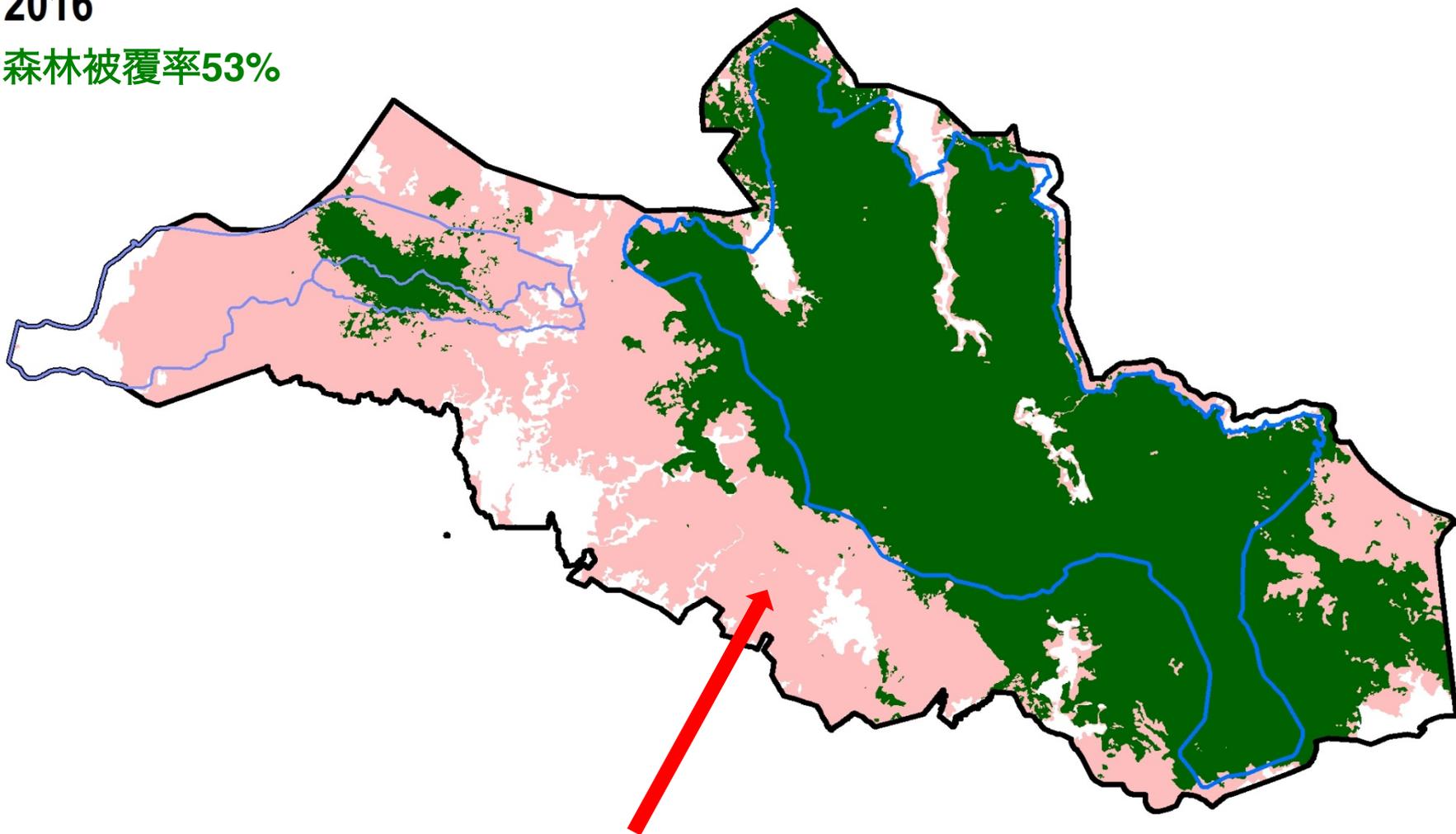


左右の自然林は、かろうじてこの部分でつながっていた

野生動物が好む低地の自然林は、人のアクセスも容易なため、全て保護区から除外されていた

2016

森林被覆率53%



野生動物が好む低地の自然林は、アクセスの良さからほぼ全て破壊されてしまった

自然林破壊の殆どが違法で、多くはアブラヤシ農園造成のためであった



WWFとミシュラン社のパートナーシップ



「ミシュランとバリト・パシフィック・グループは
環境に優しい天然ゴムを生産するJVを設立し、さらにミシュランは、
WWFと協力して関連地域の動植物の保護・回復プロジェクトに取り組みます」
(ミシュラン、2016年5月18日)



パートナーシップの2つのプロジェクト地域

このパートナーシップは、ブキ・ティガプル景観と東カリマンタンの合計88,000ヘクタールで以下を目指す：

- 自然林と野生生物の保護・回復
- 野生動物と人間の衝突の防止
- 持続可能な天然ゴム生産

インドネシア



スマトラ

カリマンタン



1. ブキ・ティガプル景観

2. 東カリマンタンのプロジェクト地域

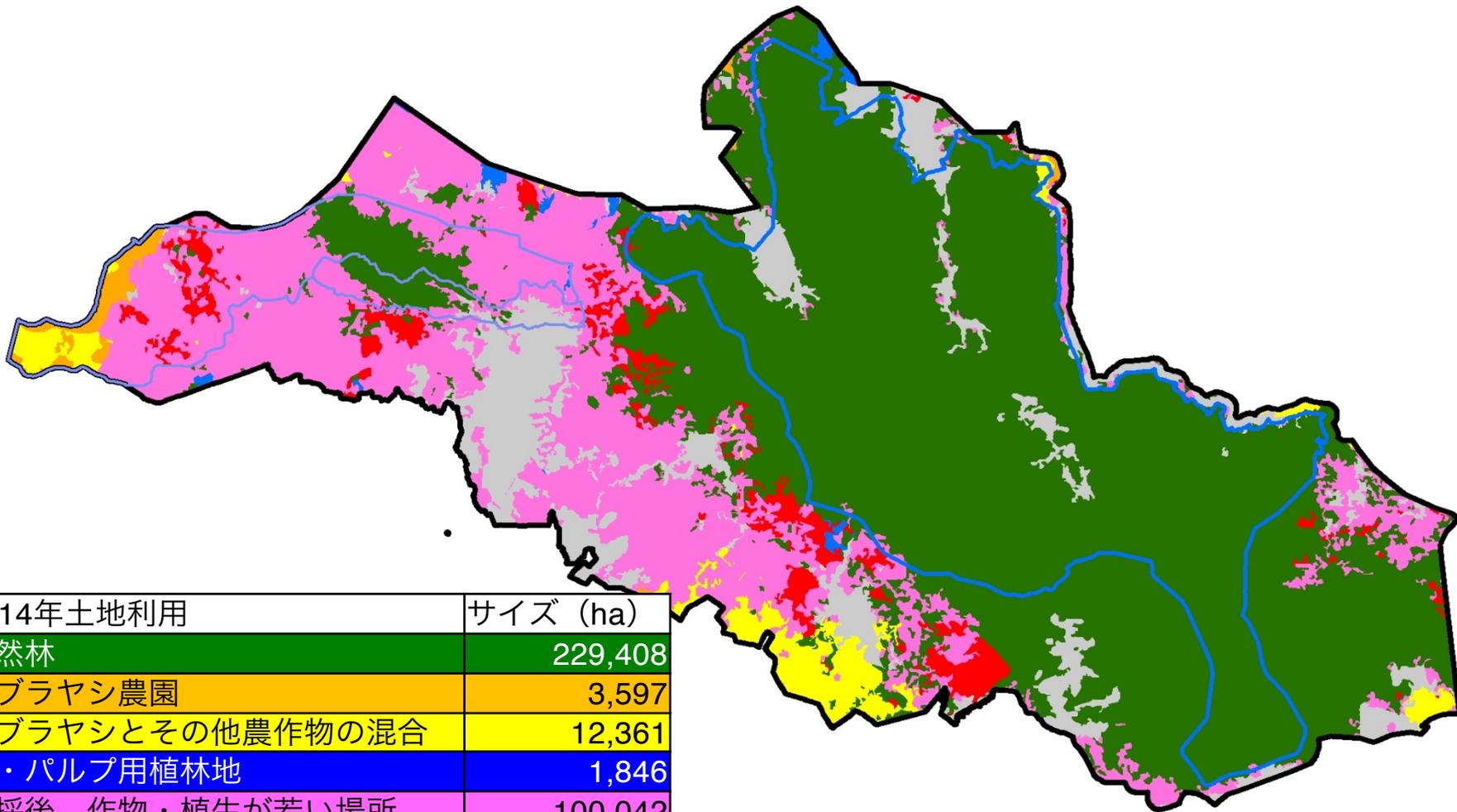
Content may not reflect National Geographic's current map policy. Sources: National Geographic, Esri, DeLorme, HERE, UNEP-WCMC, USGS, NASA, ESA, METI, NRCAN, GEBCO, NOAA, increment P Corp.

Content may not reflect National Geographic's current map policy. Sources: National Geographic, Esri, DeLorme, HERE, UNEP-WCMC, USGS, NASA, ESA, METI, NRCAN, GEBCO, NOAA, increment P Corp.



パートナーシップ以前の状態

ブキ・ティガプルの自然林以外の殆どの場所は、伐採跡地か火災跡地、または違法なアブラヤシ農園が多かった

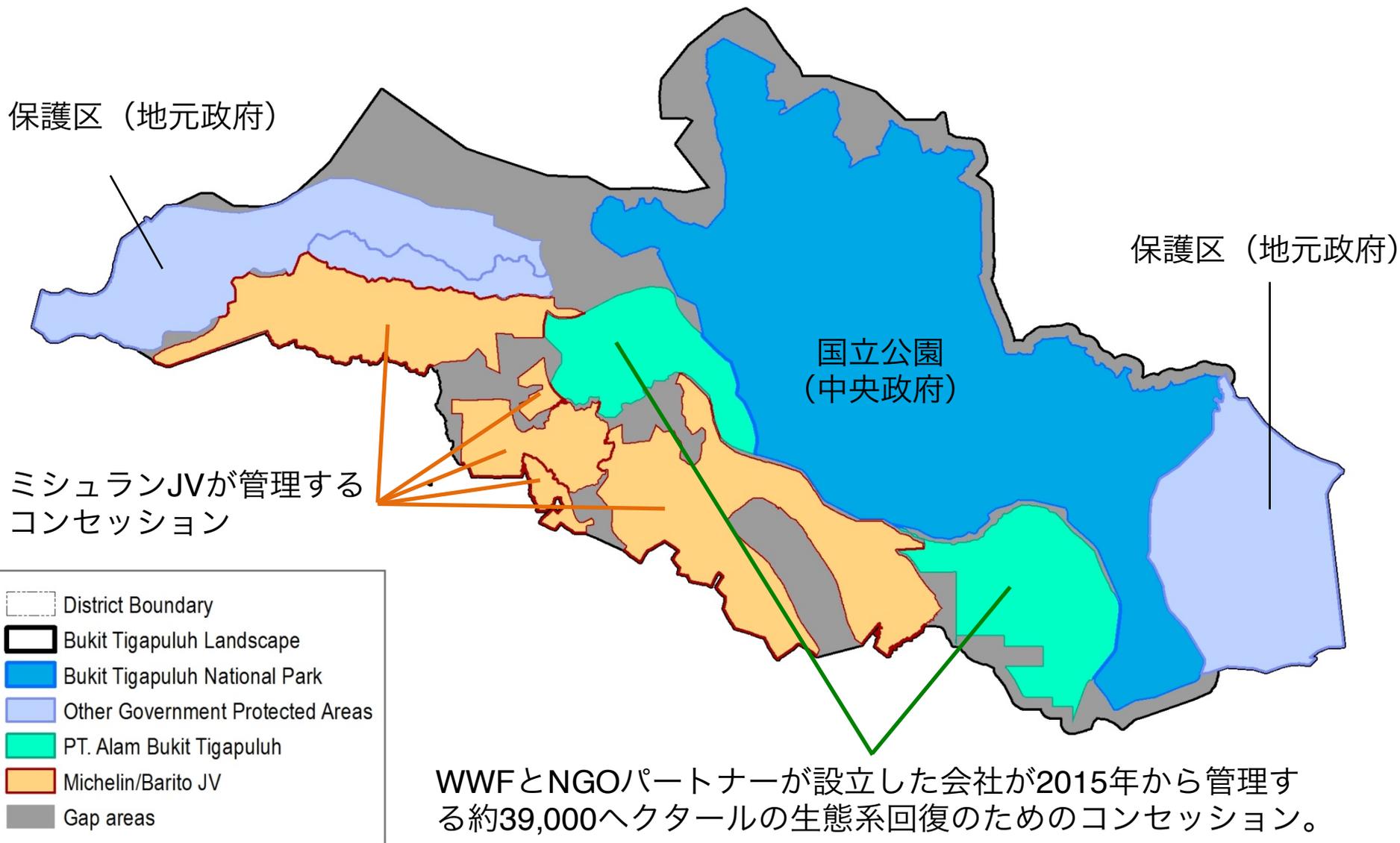


2014年土地利用	サイズ (ha)
自然林	229,408
アブラヤシ農園	3,597
アブラヤシとその他農作物の混合	12,361
紙・パルプ用植林地	1,846
伐採後、作物・植生が若い場所	100,042
伐採後、まだ土壌が見える場所	13,821
その他	39,779
合計	400,854



ブキ・ティガプル景観内の管理区分

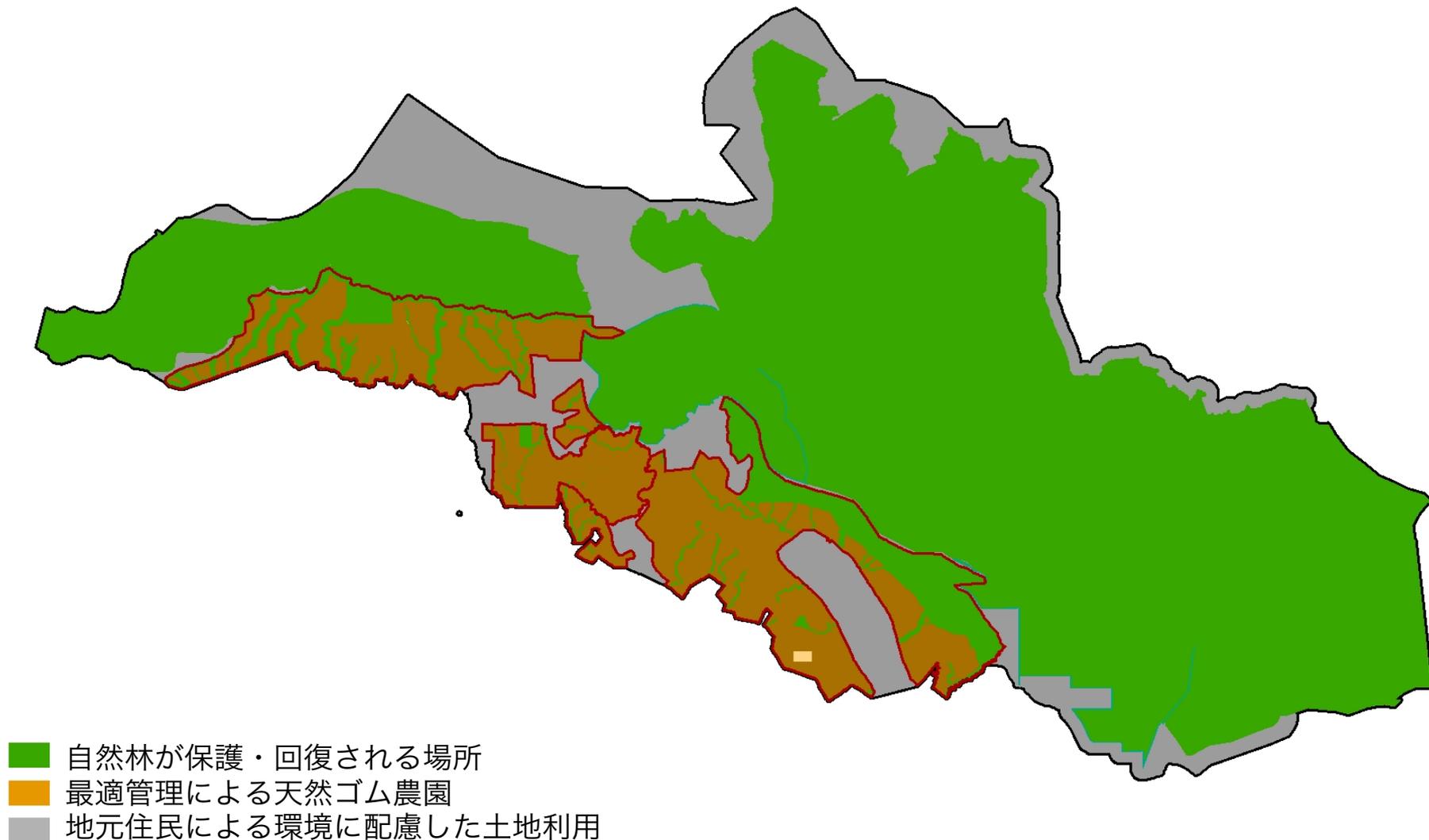
全ての土地利用者・管理者が連携して土地利用計画を作成し、重要な場所で協力して自然林を保護・回復させていく必要がある





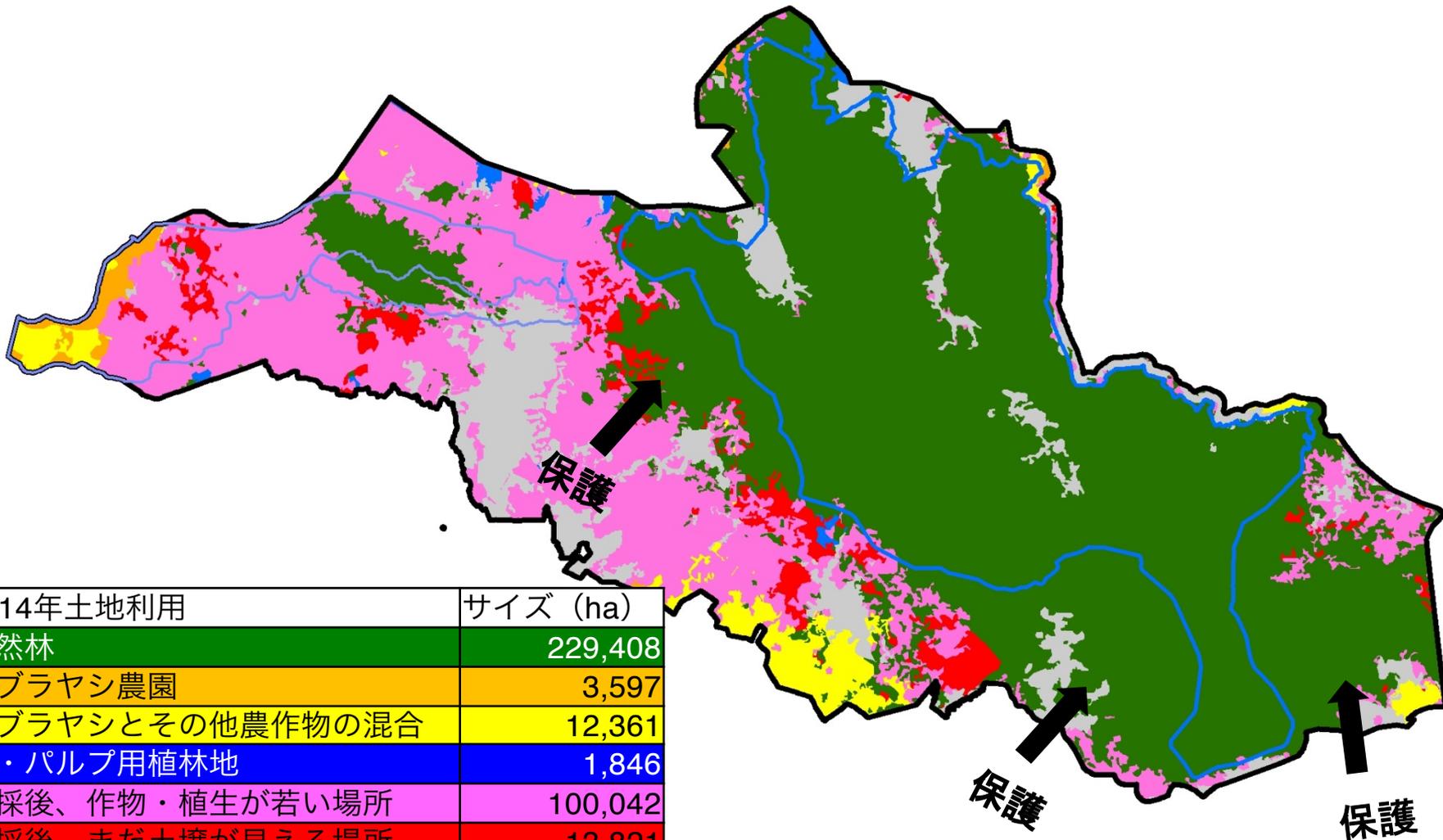
パートナーシップが目指すブキ・ティガプル・ビジョン

政府、NGO、ミシュランの協力のもと、野生動物が棲む自然林と、人が利用する持続可能なゴム農園が共存する景観



課題 1: 保護

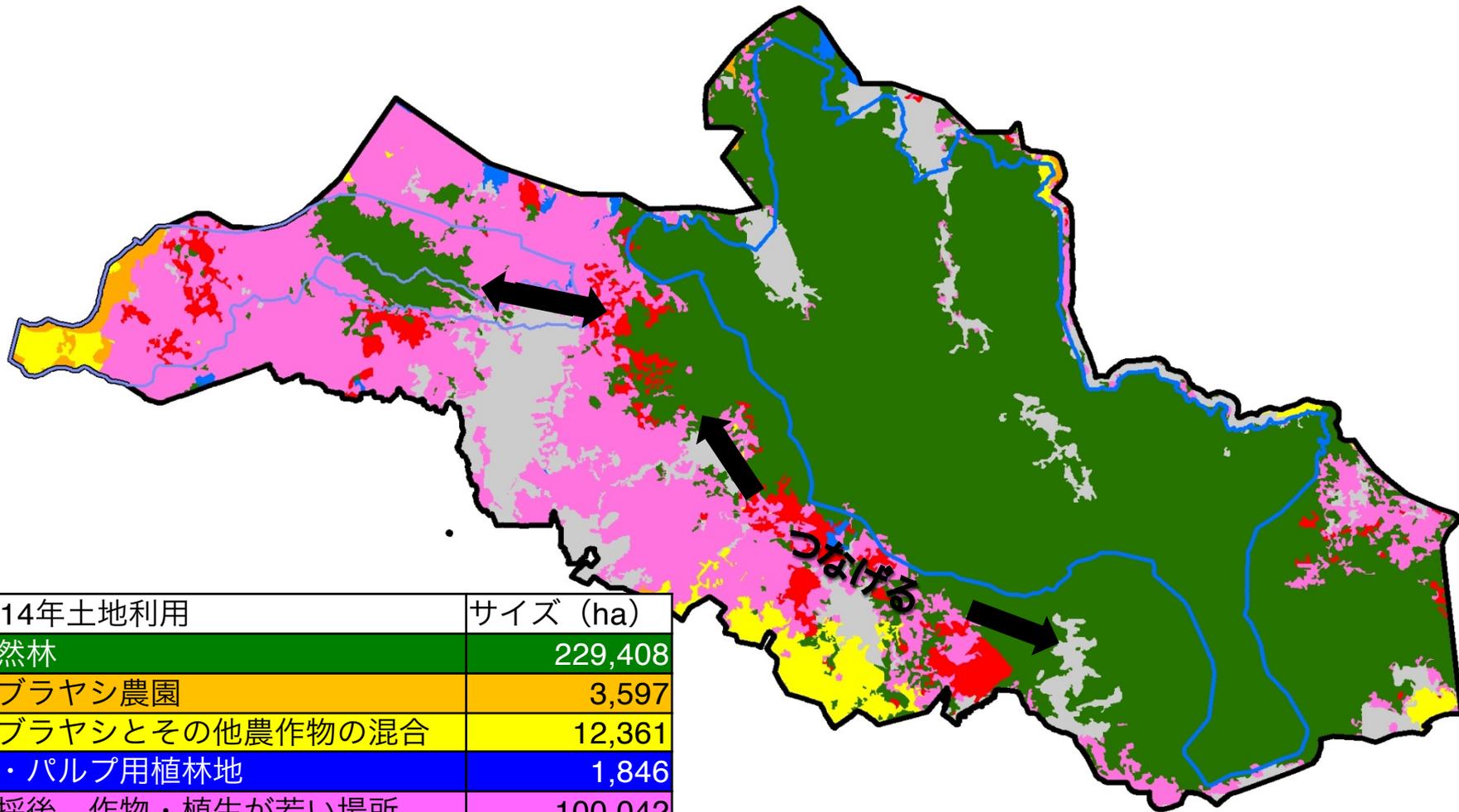
残された低地林を自然林破壊から守る



2014年土地利用	サイズ (ha)
自然林	229,408
アブラヤシ農園	3,597
アブラヤシとその他農作物の混合	12,361
紙・パルプ用植林地	1,846
伐採後、作物・植生が若い場所	100,042
伐採後、まだ土壌が見える場所	13,821
その他	39,779
合計	400,854

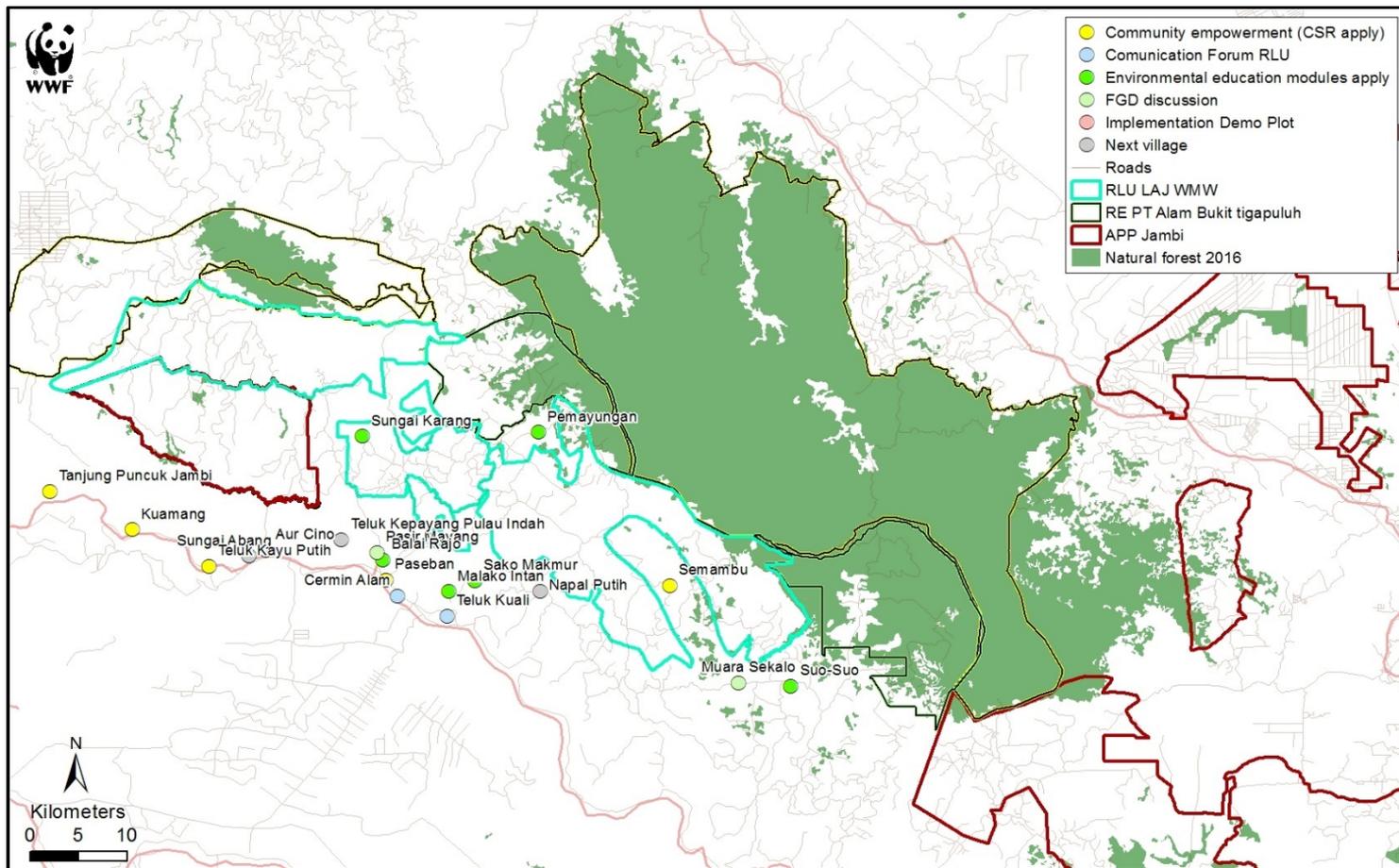
課題 2: 自然林を回復し、つなげる

違法な土地利用をされている場所で森林を回復し、
分断された自然林をつなげ、野生動物の生息地を増やす



2014年土地利用	サイズ (ha)
自然林	229,408
アブラヤシ農園	3,597
アブラヤシとその他農作物の混合	12,361
紙・パルプ用植林地	1,846
伐採後、作物・植生が若い場所	100,042
伐採後、まだ土壌が見える場所	13,821
その他	39,779
合計	400,854

課題 3: 地元住民と共に持続可能なゴム農園を作る



ミシュランJVは近隣18村、24,000人の生活を改善するため：

1. 近隣の村の土地所有権を確認する
2. 自然林破壊ゼロ、違法伐採ゼロ、野生動物密猟ゼロを約束する村人と共に持続可能な天然ゴム農園を作る
3. 彼らに対して生産性・品質の向上と価格・収入増加のための技術提供と、住居、水、電力、医療、教育関連のサポートを提供する

日本の皆さんへのメッセージ





森林破壊の歴史を繰り返さないために

世界最悪の森林破壊が続くインドネシアで、WWFを含む多くの地元NGOと国際NGOが森林破壊を止めるために長期間にわたって活動してきた。

その結果、インドネシアで主な森林破壊の原因であった紙パルプとパーム油産業がサプライ・チェーン全体での森林破壊ゼロにコミットした。

さらに、両産業は、これまでに自ら破壊に貢献してきた広大な重要生態系を回復させることにもコミットした。NGOがモニターを続ける中、両産業はこれらのコミットメントの履行に向けて動いている。

NGOが紙パルプやパーム油問題に注目し続ける間、天然ゴム産業は、森林破壊や、社会的に問題ある活動を続けてきたが、天然ゴム産業も同様のコミットメントが求められている。天然ゴム産業はメコンの国々で森林破壊を引き起こしてきたが、インドネシアの森林が直面したような破壊的な大規模伐採をメコン地域で繰り返さないように、我々は協力しなければならない。

天然ゴムのユーザー とバイヤー、トレーダーへの提言:

1. 貴社がクリーンで透明なサプライ・チェーンを求めていることを天然ゴム生産者や加工業者に対して明確にするため、森林破壊ゼロ・コミットメントを発表する
2. 貴社が調達する全ての天然ゴムがどこで生産されるか、特定のサプライヤーや生産地がどんな環境 / 社会的問題を抱えているか、早急なアクションが必要かを把握するため、トレーサビリティを確保する
3. 出来る限り多くの天然ゴムユーザーや地元のステークホルダー、NGOと協力し、天然ゴム産業の変革を効率的に加速する